

# 大阪・関西万博開催に向けた御意見

御所属 国立大学法人九州大学 理事・副学長

御名前 安浦 寛人 様

## 1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

- 是非やって欲しいこと：世界の現状を正しく伝える場とすることです。ハンス・ロスリングの「Factfulness」で示されているように、世界の状況は過去 50 年で大きく変わりました。しかし、政治家や経済界のトップ、教育界の指導者など指導的立場にある人も含めて、先進国の人々の世界の現状認識は、大きく偏っており、それが政治や経済、医療や環境問題など社会の意思決定に大きな問題を産んでいます。1970 年の大阪万博から 55 年たって開かれる今回の万博においては、この 50 年間で世界がどのくらい『良く』なったか、病気や貧困がどのくらい克服され、戦争やテロ、災害などによる被災者がどのくらい減ったのかを明示し、市民一人ひとりの日常の小さな努力により、人類が成し遂げてきた着実な進歩をデータを正確に伝える場にして欲しいと思います。その上で、SDGs など含め我々が今後達成すべき目標に対するロードマップや可能性を示し、若い世代や子供達に現実的な『明るい未来』を見せる万博にして欲しいと思います。
- 世界を複雑系として捉え、一面的な見方をせずに、多面的な事実データを元に、多様な意見を踏まえて社会的な決断がなされる『新しい民主主義』のあり方を示す場にして欲しいと思います。そのために、情報通信技術の上に構築されたサイバー社会のあるべき姿を、それぞれの市民が考え且つ体験する場にして欲しいと思います。
- 偏ったステレオタイプに基づく世界観を伝えないように、一部の社会運動や企業活動の主張に基づく偏ったデータの提示や未来予測に対する宣伝の場としないことが重要です。DNA 編集、原子力や地球温暖化など、様々な意見が対立する問題に対しては、一面的な見方だけの提示にならないよう、事実として確認された事項をしっかりと明示し、社会的に受け入れやすい予測だけでなく、異なる科学的な意見や予測も併記して、来場者一人一人が考えるための材料を提供とする場にすることが、人類史に対する大きな貢献になると思います。
- 科学技術と文化・宗教などの関係を世界に問いかける場とするための工夫も必要であると思います。人文社会科学の役割、特に『哲学』の役割を問い直す場となれば、社会の大変革期において人類史上極めて重要な役割を果たす万博となると思います。特に、西洋哲学の流れだけでなく東洋哲学やインド哲学の流れと東アジアに重点を移しつつある世界経済の関係や世界の宗教対立と科学技術の調和など、日本でしかできないような問題提起を入れられれば素晴らしいと思います。
- 今回の万博で収集する様々な情報やデータを継続的に管理し、オープンデータとして活用する仕組みを構築すれば、人類の大きな資産を作ることになると思います。

## 2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs 達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

- サイバー空間と物理空間の連携 (GPS) を体感できる展示や企画をふんだんに入れて欲しいと思います。MaaS のような移動手段の発展、日々の健康管理と予防医療の関係、学習情報を活用した新しい教育システムなど身近な生活の変化を体験させる企画が良いと思います。
- 科学技術が文化とどのように調和すべきかを体感する企画も必要です。日本が人類史を変えたと言っても良い日本語ワープロの発明の歴史を紹介するなどして、文化に技術を合わせるか？技術に文化を合わせるか？という問題を来場者にしっかり考えてもらうようなコンテンツを準備して欲しいと思います。
- SDGs は今の時点での課題の羅列であり、5 年先のものではないので、日本版のダボス会議のような議論を国際的かつ学際的に始めて、2025 年における人類の課題を 3 年後くらいを目処に提示してはいかがでしょうか？
- 万博の計画や運営に対する市民の意見を取り込む仕組みを、新しい『民主主義』のあり方の実験として計画してはどうでしょうか？情報通信技術を用いた投票や意思決定、異なる意見同士の討議と集約など、そのまま社会への導入を考えた試行をやることも考えられます。

## 3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

- 待ち時間問題は、MaaS の問題そのものです。解決策を提示することは、必須の課題だと思います。産業界に広く対策案を公募し、会場を実証実験の場とすべきです。
- 災害対策やテロ対策も実対策と社会問題解決とが全く一致した課題だと思います。企業や大学への提案募集をして、部分的にでもその仕組みを公開することは大きな社会的インパクトになると思います。
- 会場全体のエネルギー消費は来場者に実時間でフィードバックし、その行動の変化を運営に活用して、次世代エネルギーマネジメントの実証実験とすることも考えられます。
- インフラ自体を日本の社会インフラの再構築の場と考え、これまでの『失敗は許されない』という考え方だけでなく、運営中にもアジャイルに変更していくインフラ開発の取り組みとすると社会的な意義が大きいと思います。

## 4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。

- 計画から実施、実施後の活用まで含めて日本社会（ひいては人類社会）の新しい構築・運営の試行と考え、万博後を含めた持続的な活動ができる組織体制を構築することが大きなポイントであると考えます。